

2025 年度関東学園大学事業計画（概要）

はじめに

学園は、建学の精神「敬和」「温順」「質実」に基づき教育を行います。教育の質の向上と経営改善に引き続き取り組み、持続可能な学校づくりをしていきます。中期計画や事業計画の策定を通じて、ガバナンス機能の向上を目指し続け、目標達成実現に努め、選ばれる学校づくりを教職員全員で行っていきます。

1. 目的

大学は、関東学園大学学則に定める教育目的及び人材養成の目的に沿って、中期計画や事業計画の目標達成に努め、それぞれの事業内容に取り組みます。

（目的）

第1条 関東学園大学（以下「本学」と称する。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、真理を究め学理の応用につとめ、本学建学の精神を体し、福祉と文化の向上に寄与し得る人材を養成することを目的とする。

（学部及び学科並びに人材養成の目的）

第2条 本学に次の学部及び学科を置く。

経済学部 経済学科

経営学科

2 各学科の人材養成の目的を次の通りとする。

経済学科

経済学の基本的な知識を修得し、社会全体の経済現象を理解し幅広い視点から問題を発見し解決策を探索できる能力、国際的協調の態度及びコンピテンシーを身に付け、地域社会の要望に応えうる人材を養成することを目的とする。

経営学科

経営学の基本的な知識を修得し、企業やその他の組織体の経営に関わる問題を幅広い視点から解決できるマネジメント能力、国際的協調の態度及びコンピテンシーを身に付け、地域社会の要望に応えうる人材を養成することを目的とする。

2. 事業内容

（1）経済学・経営学の専門教育

本学の教育目的（学則第1条）および人材養成の目的（学則第2条）に沿って、

体系的な専門教育の教育課程編成と、そのために必要な適切な教員配置を引き続き実施していく。また、それぞれの専門教育科目については、「授業評価アンケート」による授業の「理解度」および「満足度」が 80%を上回ることを目標とする。

演習科目の履修については、専門教育科目である演習Ⅰ・演習Ⅱの履修率 90%以上を維持する。

(2) 教養教育・初年次教育

本学の教育方針およびディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）・カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を踏まえ、多様な教養科目を学生がバランスよく履修していくよう、セミナー・演習科目担当教員が中心となって支援を行う。また、それぞれの基礎科目・一般教育科目については、「授業評価アンケート」による授業の「理解度」および「満足度」が 80%を上回ることを目標とする。

2022 年度より開始したデータサイエンス教育プログラムについては、2025 年度も引き続きより多くの学生がこのプログラムを学ぶよう、データサイエンス教育プログラム対象科目の履修者数が 2024 年度と同様な水準となることを目標とする。

(3) コース制の展開

経済学科の「地域経済デザインコース」、「公共政策コース」および経営学科の「経営・会計コース」、「国際ビジネスコース」、「スポーツマネジメントコース」については、引き続き、必要なカリキュラムの見直しや教育方法の改善に努める。

各コースにおいては、セミナー・演習科目担当教員が中心となって学生の個別支援に努め、退学率が 3%未満となることを目標とする。

(4) 研究活動

各教員が、学内の研究環境を十分に活用するとともに、積極的に外部資金の獲得に取り組み、研究活動を活性化させることに努めていく。

外部資金の活用については、引き続き、本学の公的研究費に関する規程の周知と遵守を徹底させ、不正使用防止のためにコンプライアンス教育及び啓発活動を実施していく。また、研究活動上の不正行為についても、その防止のために研究倫理教育を実施し不正に関する規程の周知と遵守を徹底する。

(5) エクステンション（課外講座）

エクステンション（課外講座）については、地域社会や学生のニーズを踏まえて、必要な講座を開講していくとともに、それぞれの講座について、正課講義の合間に効率的に課外講座を受講することができる時間割となるよう配慮する。試験合格を目指す課外講座においては、筆記試験対策のみならず、面接試験対策や進路相談な

どについても個別に丁寧に対応していく。公務員の試験対策講座においては、公務員プログラムだけでなく全学生にエクステンションの存在を認知してもらい、公務員志望者は対象とするエクステンション（課外講座）科目の履修率が 100%となることを目標とする。

（6）コンピテンシー教育の推進

コンピテンシー教育は本学の教育の柱であり、学生が地域社会で活躍するために必要な能力を身に着けるために設置されている。

2025 年度も引き続きコンピテンシー教育プログラムの拡大実施に努めていく。

（7）アクティブ・ラーニング、フィールドワーク、課題解決型授業

アクティブ・ラーニングについては、本学のコンピテンシー教育の中心的な役割を持つものとして実施している。その中でも、「フィールドワーク」科目や「演習Ⅰ」でのプロジェクト型授業の実施によって、学生が自身のコンピテンシーを伸長させられるような学習機会の提供に努めていく。

（8）FD 活動の推進

2025 年度も教育内容・方法等の改善を目的とする「授業評価アンケート」と、「学生満足度調査」を実施し、教育目的の達成状況や教学、学生生活全般、就職活動支援等のあり方を点検・評価するとともに改善を図っていく。

「授業評価アンケート」においては、「理解度」および「満足度」が 80%を上回ることを目標とする。

「学生満足度調査」においては、「満足」または「やや満足」と回答した回答数の全回答数に占める割合を「満足度」と定義し、全項目の満足度の平均値が 80%を上回ることを目標とする。

教員の授業運営手法については、「授業評価アンケート」からのフィードバックや FD 研究会の開催等を通じて、教員の授業運営スキルや指導能力の向上を継続して図っていく。

（9）キャリア教育と就職支援

2025 年度は、企業の採用活動の早期化への対応を図り、内定率 98%を目指す。その目標達成をサポートするために、関連する授業の履修、イベントの参加、就活を促すために次のような諸施策を実施する。

- ①インターンシップ授業(対象:2・3 年生)
- ②学内キャリアイベントの開催(対象:2・3 年生)
- ③学外キャリアイベント(インターンシップ、セミナー・研究会など)の参加促進

④4 年生の就活状況の把握

2025 年春季休業中から年度末まで月 2 回のゼミ調査

併せて、今後の就職成果の質の向上について、過去の取り組み事例を含め、具体的に施策検討を進める。

なお、大学院への進学を志望する学生についても、必要な支援を行っていく。

(10) 学生生活の支援

学生生活の支援に関しては、今後も、学生委員会が中心となり、学生の健康管理、心的支援、生活相談等に対しては、きめ細かな対応を図っていく。

また、各学年別のオリエンテーションで事件・事故防止に向けた注意喚起や啓発活動を推進する。

部活動、サークル、同好会及び各種の実行委員会の活動の活性化に対しては、引き続き、支援を行っていく。

「学生満足度調査」の結果を踏まえ、学生の要望意見の把握・分析と実現に努めていく。

学園祭・スポーツ大会・フレッシュマンキャンプ・留学生交流会等のイベントを実施し、より充実した学園生活を提供する。

(11) 募集・広報活動

学長のリーダーシップの下、募集委員会を中心として学生募集に全学的に取り組む。2026 年度入学者数の目標を 150 名として、収容定員充足率の向上を目指す。